

バルンティ・アルミライ(1841～1904年)

Almirall i Llozer, Valentí (Barcelona 1841 –
Barcelona 1904)

- 政治家、ジャーナリスト、作家
- 共和主義・連邦主義思想を抱く
- 政治的カタルーニャ主義の先駆とされる



【その生涯】

- バルセローナに商家の息子として生まれる。
- 各地を旅行し、数ヶ国語に長ける（ギリシア語、ラテン語、フランス語、英語、イタリア語、ドイツ語）。
- バルセローナ芸術学校に学ぶ。
- バルセローナ大学で哲学（1854-57）と法学（1857-63）を学ぶ。
——弁護士資格を得るが、その活動は限られている。
- いくつかのサロンへの参加、知識人・文化人との交流
——Frederic Soler (Serafí Pitarra)、Gonçal Serraclara、Conrad Roure、Anselme Clavé、Josep-Lluís Pellicer、Inocenci López、Josep Feliu i Codina
- バルセローナのブルジョワジーの富裕な家庭に生まれる（Papiol男爵の爵位をもっていたが、アルミライはその呼称を使うことはなかった）

- Pitarraの民衆演劇の活動に協力。

”Amb el català que ara es parla”

- 1868年革命。非妥協的連邦共和主義者として活動を始め。

⇒スローガン “o tot o res”

※歴史的諸地域と連邦政府の間での主権の分有を主張

- 連邦主義者クラブを指導
- «El Federalista»を発行
- *Bases para la Constitución federal de la Nación Española y para la del Estado de Catalunya* (1868)を発表。
- トゥルトーザ協定(1869年5月)の調印に関わる。

——カタルーニャ、バレンシア、バレアレス、アラゴンの共和主義者団体

- 連邦主義の宣伝紙«El Estado Catalán»を発行（バルセローナ：1869年7月～70年6月、マドリード：1873年3月～6月）
- 1869年9月バルセローナの連邦主義者の反乱に参加、逮捕されてバレアレス諸島に幽閉されるが、仲間と逃亡。同年末、恩赦を受ける。
- 1870年4月、徴兵制（キンタス）反対の運動に参加。
- «La Campana de Gràcia»の発行に加わる。

- 1871年、バルセローナ慈善の家(Casa de Caritat)院長に任命される
 - ⇒合理的・人道主義的態度で運営を行なうが、第一共和国崩壊とともに辞任する。
- 1873年、サバデイ産業・海運学校の創設に尽力するが、失敗。
- 王政復古実現とともに公職には関わらなくなる。
- 1878年、自由アテネオ (Ateneu Lliure) 設立に協力、会長になる。
- カタルーニャ語の最初の新聞«Diari Català»を発行(1879年5月4日～1881年6月のバルセローナ花の宴祭典まで)
- 1879年、二つの小説を発表

- ピ・イ・マルガイの連邦主義との関わり(1881年の断絶まで)
- ジャーナリストとしての活動
 - 1868年、「El Federalista」を発行
 - 1870年、「La Campana de Gràcia」発行の一人
 - *内戦まで発行された民衆向けの新聞*
 - 1869-70、1873年、「El Estado Catalán」
 - 1879年、「Diari Català」
 - 1882年、「Bultlletí del Centre Català」

- ピ・イ・マルガイの抽象的連邦主義にカタルーニャにおける実質を与えようとする。

- 1880年、第1回カタルーニャ主義者会議の組織

(この頃すでにピ・イ・マルガイとの関係は良好ではなかった)

※1869年のトゥルトーザ協定の推進者として、アラゴン連合王国(カタルーニャ=アラゴン連合王国)の旧諸国の協定を再構築しようとしていた。

※カタルーニャの過去を神話化する傾向。

——近代連邦主義の先駆けとしての過去の連邦主義

- アメリカとスイスの政体の研究

-*Los Estados Unidos de América: Estudio Político* (1884)

-*La Confederación suiza y la Unión americana. Estudio político comparativo* (1886)

- カタルーニャの過去の再評価

-*El renacimiento catalán, las leyes forales y el carlismo en Cataluña* (1878)

- 1881年、カタルーニャ法曹会議を組織

⇒アルミライはカタルーニャ法を擁護

※この頃ピ・イ・マルガイとの断絶が決定的となる。

——→アルミライは、不均整な連邦主義federalisme asimètricを主張

- 1882年、バルセローナでセントラ・カタラCentre Català (カタルーニャ・センター)を結成

⇒Frederic Solerが会長、Almirallは書記長となる。

- 1883年、セントラ・カタラが、第2回カタルーニャ主義者会議を開催

- 「被害者報告Memorial de Greuges」(1885年)の作成に関わる。
 - ⇒カタルーニャのスペインとの歴史的関係の省察を踏まえて、保護主義の立場からカタルーニャに対する政府の政策転換を迫る。同時にカタルーニャの独自のアイデンティティの尊重を訴える。
 - (1) 国家連合的ステータスをカタルーニャ地域に付与することを要求
 - (2) 中央集権主義を批判
 - (3) 行政制度の近代化を要求
 - (4) 公的言語としてのカタルーニャ語の地位回復を要求
 - (5) 民法統一化への批判
 - (6) イギリスと通商協定締結への批判
- ⇒国王アルフォンソ12世への直接の陳情

Cf.: [http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/hirotate/es-lectura/2007/paraules%20de%20Maspons%20\(1885\).pdf](http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/hirotate/es-lectura/2007/paraules%20de%20Maspons%20(1885).pdf)

- 1886年、バルセローナ花の宴祭典を主催。彼の主著『カタルーニャ主義Lo Catalanisme』を発表し、“particularisme”を擁護。

※この頃には急進的民主主義から離れて、政体の如何よりもカタルーニャの自治を志向する。

※アルミライのカタルーニャ主義運動は階級横断的であり、選挙の腐敗やカシキズムを糾弾するが、組合に関してもイギリス的な改良主義を主張する。

- 1887年、会長となっていたアルミライはバルセロナ万国博覧会(1888年開催)の計画に強く反対するなどしたために、セントラ・カタラが分裂する。

⇒分派はカタルーニャ同盟Lliga de Catalunyaを結成
(Àngel Guimerà, Lluís Domènech i Montaner, Joan Permanyer)

※カタルーニャ同盟の潮流はやがてセントラ・カタラを排してカタルーニャ主義連合(1891年)となり、やがて地域主義同盟Lliga Regionalistaへと発展する(1901年)。

⇒Prat de la Riba率いるこの政党をアルミライは、セントラ・カタラの分派を引き継ぐものとし、カタルーニャ・カルリスモの発展であると糾弾した。

- 1888年、摂政マリア・クリスティーナが花の宴の女王と指名されたために、アルミライのセントラ・カタラは別に同様の祭典を催す。

⇒非妥協的アルミライの影響低下、健康の悪化

- 1895年、ルセント・アルスの遺言執行人としてアルス公共図書館 **Biblioteca Pública de Arús** を設立する。

⇒19世紀と20世紀初めの民衆運動の貴重な出版物(書物と定期刊行物など)の図書館となる。

- 1896年、バルセローナ・アテネオの会長に選出される
- 死去にあたって、蔵書をアルス図書館に寄贈

アルミライの政治行動についての評価

アルミライが構想した政治プロジェクトは結局うまく行かなかったが、それは、共和主義者の多数にとってはあまりにカタルーニャ主義的であり、当時のカタルーニャ主義者の多数にとってはあまりに共和主義的であったし、保守主義者にとってはあまりに急進的であり、急進主義者にとってはあまりに保守的であったからである。

そして彼の死後、政治的カタルーニャ主義の最初の段階に重要な位置を占めたそのイデオロギーの評価をめぐって論争が生じた。

- 連邦共和主義者 —統一的共和主義者 —地域主義同盟
- プラット・ダ・ラ・リバ —マルティ・イ・ジュリア —近代主義者
- 独立志向の急進的カタルーニャ主義者 —保守主義者
- カタルーニャ共和主義左翼 —全国労働連合

Lo Catalanisme (1886)

『カタルーニャ主義』

- Valentí Almirall i Llozerの著作
 - 副題に、Motius que el legitimen, fonaments científics i solucions pràctiques
 - 1886年5月2日のバルセローナ花の宴祭典に発表される。アルミライがこの年の祭典委員長であった。
 - カタルーニャ主義を体系的な政治教義として提示した最初の作品
 - 一般に大きな反響を呼ぶ——2年の間に二つの版。さらに豪華本。
 - Il·lustració Catalanaの”Lectura Popular”叢書に32頁の要約本、さらにカスティーリャ語への翻訳が現れる (Barcelona: Imprenta de La Campana i La Torratxa, 1902)。
- ⇒ スイスとアメリカ合衆国の連邦政体を参照系とし、Charles DarwinとHerbert Spencerの影響を受けつつ、カタルーニャ主義を提示する。
- その自由主義的・科学的見方は、保守主義者の反発を受ける。
——→ ジュアン・マニェ・イ・フラケー: 行政の分権化を唱えつつも王政復古体制の枠組みを維持することを主張。 *El Regionalismo* (1887)

——→宗教的グループ。Jaume Collell、Josep Torras I Bages
Colell: *El catalanisme. Lo que és i lo que hauria de ser*
Torras i Bages: *La tradició catalana*
⇒カタルーニャ精神の基礎にカトリックが置かれると主張。

〔アルミライの著作〕

- *Bases para la Constitución federal de la Nación Española y para la del Estado d Catalunya: Observaciones sobre el modo de plantear la confederación en España por el Vice-presidente del Club de los Federalistas* (Barcelona, 1868)
- *La República Federal Española. Datos para su organización* (1873)
- *Los Estados Unidos de América: Estudio Político* (1884)
- *El renacimiento catalán, las leyes forales y el carlismo en Cataluña* (1878)
- *La Casa de la Caridad de Barcelona* (1879)
- *La Confederación suiza y la Unión americana. Estudio político comparativo* (1886)
- *Lo Catalanisme: Motius que el legitimen, fonaments científics i solucions pràctiques* (Barcelona, 1886)
- *L'Espagne tell qu'elle est* (Paris, 1886-1887)
- *Contestación al discurso leído por D. Gaspar Núñez de Arce en el Ateneo de Madrid* (1886)

—— Núñez de Arceのテキストを載録して反駁を加える。

- *Articles literaris* (Barcelona, 1904)
- *Articles polítics: “Diari Català” (1879-1881)* (Barcelona, 1984)
- *Societat i cultura: articles culturals al “Diari Català” (1879-1881)* (Barcelona, 1985)

〔アルミライに関する参考文献〕

- Figueres, J. M.: *Almirall*, Barcelona: Thor, 1988.
- Figueres, J. M.: *Valentí Almirall, forjador del catalanisme polític*, Barcelona, 1990.
- Llorens, M.: “Valentí Almirall i Llozer (1841-1904)”, *Industrials i polítics (segle XIX)*, Barcelona: Vicens Vives, 1958, pp. 443-447.
- Pla, Josep: “El senyor Valentí Almirall”, dins *Obres Completes*, vol. XXXII, Barcelona, 1987, pp. 183-255.
- Rovira i Virgili, A.: *Valentí Almirall*, Barcelona: Barcino, 1936.